

令和7年度 荒川区立尾久小学校 学校経営方針

荒川区立尾久小学校
校長 水野 美津子

1 本校の教育目標

人権尊重の精神に基づき、社会の変化に主体的に対応し、未来を創る力を身に付け、心身ともに健康で自主性と創造性に富み、心豊かでたくましく生きる児童の育成を目指す。

- 進んで学ぶ子
- やさしい子
- ◎たくましい子

2 学校経営理念

本年度で、138年を迎える尾久小学校の歴史と伝統を引き継ぐとともに、社会の変化に柔軟に対応できる学校経営を進める。めざす学校の姿として「笑顔・あいさつ・思いやり」のあふれる学校」を掲げる。あたたかい人間関係、落ち着いた学習環境を大切に、児童にとってウェルビーイングの実現を目指していく。その上で、小学校時代を将来自立するための基礎となる土台をつくる時期ととらえ、「知・特・体」のバランスのとれた児童を育成するために、「進んで学ぶ子・やさしい子・たくましい子」を教育目標として、取り組む。また、社会に開かれた学校づくりを通して、学校・保護者・地域が協力して児童の育ちを支えていくことができる学校を目指す。

3 目指す児童像

○進んで学ぶ子

自分の考えをもち、友達と学びを楽しむ子

- ・人の話をきちんと聞くことができる子
- ・分からないことは辞書やタブレットを使ってすぐに調べようとする子
- ・自主学習に意欲的に取り組む子
- ・読書が好きで「読み・書き・計算」の基礎が身に付いている子
- ・自分の考えを積極的に発信する子

○やさしい子

友達の痛みや思いを感じ、進んでかかわる子

- ・自分自身や相手のことを理解し、信頼できる子
- ・強い心をもち、差別やいじめを絶対許さない子
- ・共に助け合い、協力し合う子
- ・その場に合った適切な言動ができる子

○たくましい子

命を大切に、自分のめあてに挑戦する子

- ・大きな声でいつでも誰に対しても自分から挨拶ができる子
- ・何事にも意欲をもって取り組む子
- ・最後までやり抜き、責任を果たす子

4 目指す教師像

子供を愛し、ともに健康で明るい教師

- ・児童の声に耳を傾ける。
- ・児童の小さな変化やSOSに敏感に気付く。
- ・一人一人の児童の良さを見付け伸ばす。

よりよい授業を目指し、学び続ける教師

- ・授業改善に意欲的に取り組む。
- ・1単位時間の中の「めあて」を明確にする。
- ・校内OJTや区教研など様々な教師から指導力を学ぶ。
- ・主体的かつ個別最適な学習のため、ICTを積極的に、効果的に活用していく。

チーム尾久として互いに長所で交わり、明るい職場をつくる教職員

- ・報告、連絡、相談の徹底。
- ・専門性を生かし、互いに教え合い、学び合える。

- ・何か問題が起きた時には一人で抱え込まずに「チーム」で解決していく。

保護者や地域の人に心を開き、誠実にこたえる教職員

- ・丁寧で誠実なコミュニケーションをとる。
- ・情報発信をこまめに行う。
- ・地域行事へ積極的に関わる。

5 学校経営の基本的な方針

(1) 確かな学力

① 授業の質の向上

- ・学習のねらいを明確にし、学年に応じた基礎基本の充実を図る。
- ・児童の学習意欲・動機付け「なぜ」「やってみたい」「調べてみたい」を大切にし、児童の主体的な学習を経て、確かな学習成果「わかった」「できるようになった」など学ぶ楽しさを感じられるような生き生きとした授業を展開する。

② ICT教育の推進

- ・各教科の授業において、タブレットを効果的に活用し、ICT共有の強みを生かした個別学習や交流を通しての学びを深める指導方法を研究していく。

③ 表現力の育成

- ・1単位時間の中に話し合いの時間を入れた計画を立てる。
- ・児童が自分の考えや意見を積極的に発信できるようなしなかけを授業の中に入れていく。

④ 基礎的基本的な知識・技能の定着

- ・授業のユニバーサルデザインを視点として授業改善や学習環境の改善に取り組み、学習意欲及び、学力の向上を図る。
- ・家庭学習や自主学習に積極的に取り組ませる。
- ・タブレットを活用し、習熟に応じた個々の能力を最大限に伸ばせるようにする。
- ・算数オリンピックを実施し、学期ごとの学習の定着を確認する。

⑤ 特別な教科道徳の質的充実

- ・校内研究のサブテーマである「考え、議論する道徳」の実現に向け授業実践を積む。

⑥ 学校図書館の利活用

- ・各教科の指導に計画的、積極的に学校図書館を利活用する。
- ・朝読書の実施、読み聞かせなどを通し、読書に親しむ機会を多く設定し、児童の読書の幅を広げる。

⑦ 外部人材の活用

- ・地域や専門性の高い人材から学ぶことで、児童の興味関心を高め 多様な価値観に触れ、学習意欲の向上につながるよう、計画的、積極的に外部人材を活用していく。

⑧ 教科担任制の推進

- ・東京都教育委員会小学校教科担任制等推進校として、毎月成果、課題を振り返る時間を設ける。
- ・教員の専門性を高める。

⑨ 幼保小中の連携

- ・1、2年の生活科、図書などで幼稚園、保育園、中学校との連携した授業を計画する。
- ・幼稚園、保育園との円滑な接続のため、スタートカリキュラムを取り入れた指導を行う。

(2) 豊かな心の育成

① 安全で楽しい教室

- ・失敗が責められない雰囲気、児童一人一人が居場所を感じられる教室にする。

② 規範意識の向上

- ・「尾久小のきまり」の定着を徹底し、児童の規範意識を高める。
- ・あいさつ運動の実践
返事、あいさつをしっかりと身に付けさせる。
授業の始まりと終わりのあいさつでけじめをつける。
- ・毎週一回「生活指導夕会」を行い、児童の状況について情報共有して児童理解につとめ、同一歩調、共通実践を重視して指導にあたる。

③ 奉仕の心の育成

- ・クリーンクリーン活動や他学年との交流を通し、奉仕の心の育成を図る。その際には、道徳や学級会などで価値づけをしっかりとらせる。

④ 道徳教育・人権尊重教育の推進

- ・道徳の指導法の工夫に取り組み、道徳の授業や道徳授業地区公開講座をさらに充実させる。
 - ・あらゆる偏見や差別をなくす人権教育の徹底を図り、全教育活動において道徳教育を中心として人権教育を推進する。
- ⑤ 特色ある教育活動の推進
- ・「田植え、稲刈り、やご筏づくり、グリーンカーテン」の活動を通し、生命尊重の心を育む。
 - ・「鼓笛隊」での活動を通し、責任感、協力連帯感、努力、自己肯定感、思いやりなどの心を育む。
- ⑥ 心の教育の充実
- ・児童が主体的に自他の生命を重視し、身近な問題として起こり得るいじめ問題については、「しない」「させない」「許さない」態度を育む。
 - ・いじめアンケートやヤングケアラー等のアンケート、i-checkの活用や個人面談、尾久教室の教員やスクカウンセラーとの連携を通して、児童理解に努め、児童の心の安定を図るとともに、一人一人を支援する教育を推進する。
- ⑦ 特別支援教育の充実
- ・尾久教室においては、巡回指導教員と在籍学級担任、特別支援教室専門員が協働することにより、利用する児童が抱える困難さを改善し、集団適応力の伸長を図る。
 - ・毎月の「特別支援校内委員会」では、各学級における特別な支援を要する児童について情報交換を行い、指導の方針やサポートに体制について検討する。
- (3) 健やかな体
- ① 体育授業の改善・充実
- ・体育主任を主としたOJTを実施し、基礎的な技術の向上を図る。
- ② 校庭遊びの促進
- ・朝遊びや休み時間は児童に声をかけ1日40分を目標に体を動かす習慣をつける。
- ③ 体力向上の取組
- ・健康マラソンや縄跳びの強化月間を設け、児童が目標に向かって取り組むようにさせる。
- ④ 基本的生活習慣の確立
- ・保護者会やホームページ、学校だよりなどで、基本的生活習慣の確立のため、家庭と連携した指導を行う。
- ⑤ 栄養教諭や養護教諭と連携した食育、健康教育の充実
- ・心身の健康の増進を図るため、薬物乱用防止教室やがん教育を含む健康教育、保健指導の充実を図る。
 - ・毎日の「尾久ランチ」だよりやとうもろこしの皮むきなど栄養教諭と連携し、食に関する正しい知識と望ましい食習慣について楽しく学び、健康で健全な体をつくる教育を充実させる。
- (4) 安心安全な環境づくり
- ① 子供たちが安心して過ごせる居場所づくり
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどと連携し、すべての児童に寄り添った指導をする。
 - ・不登校傾向にある児童には、登校サポートスタッフと連携し登校をサポートしたり、オンライン授業を活用し、孤立しないよう支援していく。
- ② 安全教育の推進
- ・安全危機管理マニュアルを随時見直し、共有することで、組織としての危機管理対応力の維持・強化を図る。
 - ・「セーフティー教室」「交通安全教室」及び毎月の安全指導により自己の未然防止に努める。
 - ・「デジタルシチズンシップ教育」の推進を図り、SNSの適切な使い方、ネット被害、ネットトラブルを回避する力を育てる。
- ③ 教育環境の整備
- ・用務主事と連携しながら校舎内外の美化に努め、清潔で整理整頓の行き届いた教育環境に整える。
 - ・毎月1回、全教職員による校内安全点検を行い、安全な施設・設備の管理に努める。
 - ・校内環境（学級の掲示物・学校の掲示物）の充実を図る。ユニバーサルデザインの視点に基づき、どの児童も落ち着いて学習に集中することができるように教室内の掲示物の整える。
 - 児童の学習の様子や学校の特色が分かる生き生きとした掲示物
 - 児童の学習意欲、好奇心、夢や前向きな気持ちを高める掲示物
- ④ 教員の服務規律の厳守
- ・年に3回服務事故防止研修を行い、服務を厳守する教職員を育てる。

⑤ 教員のワークバランスの充実

- ・児童が安心して過ごせる場を作るには、教員の心の安定が必要である。組織の中で、教職員一人一人がやりがいを感じられる職場、活躍できる学校を目指す。
- ・教職員自身がライフワークバランスを意識する。日々の生活の質の向上や人生を豊かにするための個々の時間はもとより人格形成をもたらし、ひいては教育の質の向上にもつながる。仕事もプライベートもともに充実し、自分でできる働き方改革を意識、実践する。

(5) 保護者・地域との連携

① 学校からの情報発信

学校だより、ホームページ、ブログ等を通して、教育活動にかかわる情報を発信し、家庭や地域社会とともに児童を育成する開かれた学校運営を進める。

② 地域の人材・自然・社会的環境を生かした体験的な教育活動の推進

- ・地域講師から学んだり、「蛍鑑賞」や商店街へのインタビューなど地域のつながりを生かした教育活動を展開する。

③ 保護者と連携した教育活動

- ・長期休業中における家読の推進やPTAと連携したドッジビー活動、図書ボランティアによる読み聞かせなど保護者と学校が協働しながら児童の健全な育成を図る。

④ 防災教育の推進

- ・児童が自分の身を守るための防災教育を行うとともに、町会と連携した防災訓練を実施し、大規模地震や台風発生時などの防災活動の取組を推進する。

(6) 信頼される学校を目指して

① 教員としての資質向上

- ・校内研究、研修を授業力の向上の場として、指導法について研究を深める。ICTを活用した授業を充実させる。
- ・授業観察の日常化、荒川区教育研究会の全員参加により授業力の向上を図る。
- ・週案簿に授業のねらいや指導の振り返りを記入し、先を見通した意図的、計画的な指導を行う。
- ・組織的なOJTの実施により、キャリアプランを基に、一人一人の教員の能力を高めていく。
- ・若手研修の充実により、若手教員の指導力を向上させる。

② 教育公務員としての自覚と誇り

- ・一人一人が教育公務員としての使命感をもち、サービスを厳守するとともに、年間3回のサービス事故防止研修を軸に学校組織全体としてサービス事故防止に取り組み、保護者地域の信頼に応えていく。
- ・教育公務員として保護者から信頼されるよう、社会人としての身だしなみ、言動、来客者や電話応対などに努める。
- ・報告、連絡、相談を密に行い、組織としてのきめ細やかな対応を行い、互いに協力し、支え合う学校組織にするとともに、それぞれの職務をしっかりと果たし、全教職員が一丸となり本校の教育に力を尽くす。